



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：イラクの治安に関する米国との会合 (8月6日付 ISNA 報道)

8月6日、バグダッドにてイラクの治安に関するイラン・イラク・米国3カ国委員会の初会合が開催された。同会合終了後のアブドルラヒヤーン・イラン代表の記者会見での発言：

1. 会合は、真剣且つ明確な雰囲気の中で行われ、テロの根源が検討された。議論の軸も、イラクの安定・治安の確保、並びにイラク政府・国民に対する支援についてであった。
2. テロの根源について我々は、テロリズムに良し悪しはなく、選択的にテロと対峙すべきではないと米側に述べた。如何なる形態・次元のテロに対しても対峙すべきである。今回の会合では、占領下のイラクでのテロの根源及び原因について、米側に説明を行った。
3. 又、今回の会合で我々は、イラクでの治安悪化及び米国の曖昧で、時として疑惑をもたらすような振る舞いについても議論した。我々は、イラクの一部のテロ・グループを放置している米国の過失、ないし故意の行為も提起して批判した。米側代表団は、これに対して納得できるだけの説明を行えなかった。
4. 占領者達は誤った政策を遂行しており、それがテロの激化をもたらしていることも今回の会合で批判の対象となった。米側は、イラクの現状は困難であるとして、この危険な状況を脱するためにイラン側に助力を求めた。
5. イラク政府は、今回の会合は建設的なものであったとして、イラク情勢におけるイランの役割を有意義且つ重要であるとしている。イラク政府は協議の継続を要請し、我々は、イラク政府による調整及び招待に基づき、次の適切な時期に協議をすることで合意した。
6. (今回の会合で MKO - 在イラク・反イラン政府組織モジャヒディーンハルク - について議論されたかの問いに対し) 今回の会合では、特定グループに関する議論はせず、イラク国内のテロ問題について全般的な懸念を表明した。
7. (イラン・米国間の根本的な意見の相違に鑑み、イラクに関する共通認識に達し得たかと問われ) 今回の会合で我々は、イラク国民及び政府を支援する明確な枠組みに到達するために、テロ問題及び安定と治安への道を検討した。専門家協議は、それ自体独特のものであり、当然、協議の終わりには必要な総括が行われるであろう。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799